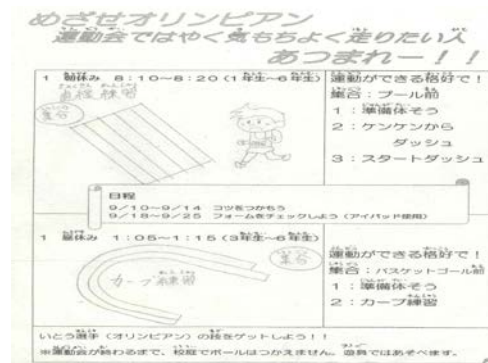


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
オリンピック・パラリンピック教育推進校

事業実施報告書

学校名【 横浜市立 城郷小学校 】

1 実践テーマ	【スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び】 【スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築】 【スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2 実施対象者	①全校児童 ②4年生総合的な学習の時間 ③参加希望者
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育）2年生の野球教室 2・3年生のサッカー教室 （体育）オリンピックによる走り方教室（伊藤友広さん） （総合）4年生の障がい者スポーツ体験 ② 行事名（朝会）校長講話 ③ その他（休み時間）めざせオリンピック 早く走りたい人集まれー チャレンジ城郷縄跳
4 目標 (ねらい)	○スポーツを通して子どもたちがいきいきとした生活を送ることができる。 ア) 体力向上の推進 イ) オリンピアンとの連携・協働の推進 ウ) スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び
5 取組内容	ア) 体力向上の推進 ○野球教室（ベ이스ターズ出前指導）の実施 5月 ・東京2020での野球種目復活と会場都市として2年生全員を対象にベ이스ターズの元選手の方たちによる野球教室を実施。 ○サッカーキャラバン（マリノス出前指導）の実施 10・11月 ・東京2020での日産スタジアムがサッカー決勝会場となることを意識しつつ、2年生、3年生全員を対象に育成コーチや選手によるサッカー教室を実施。 ○走り方実践教室の実施 ・オリンピックに教えてもらった後、運動会までのおよそ3週間、昼休みと朝休みに実施。 ・朝休みはスタートの練習やケンケンからのダッシュを、昼休みはコーナーの走り方を実際に走って練習した。 ・全校に呼びかけ参加者を募った。 ○短縄週間の実施 (運動委員会が企画し毎日実施) ・1月～2月を縄跳び月間とし、挑戦する。 ・運動委員会が立ち合い、記録の認定をする。 イ) オリンピアンとの連携・協働の推進 ○オリンピック（伊藤友広選手）を招いて走り方教室と講演会を行っていただいた。早く走るコツやスタートを早くするコツについて実技を伴いながら、分かりやすく教えていただいた。 ・6年生は講演を聞かせていただき、夢の実現に向けての考え方ややってきたことを聞かせていただいた。 ・運動会の開会式に全校に向けたメッセージをいただき、演技・競技への意欲を高めた。



	ウ) スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び ・朝会で校長がオリンピックの意義や歴史に関する講話を行い意識づけをした。 ・図書室にオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する書籍のコーナーを用意した。 エ) 障がい者スポーツ体験 車いすバスケットボール選手やシッティングバレーボールの選手をお呼びして車いすの操作、ミニ試合体験やシッティングバレーボール模範演技・模擬試合を体験させてもらうとともに、競技の楽しさや生活との両立、仲間とのつながりについてお話を聞かせていただいた。 
6 主な成果	○子どもたちのスポーツに対する意識が向上した。 ・継続的に走る機会を設けたことで運動会後のふりかえりでも、「よい結果が出た。」や「走るのが早くなった。」といった言葉が聞かれた。 ○オリンピック・パラリンピックに対する知識が深まった。 ・朝会講話で紹介されたオリンピック関連の話題をきっかけに、家族や身近な人とオリンピックについて話す機会がもてた。 ・パラスポーツを知ることによって、多くの人がスポーツを楽しめる環境づくりがおこなわれていることに気づくことができた。 ・長野五輪の聖火トーチ棒（実物）に触れ、聖火リレーに興味をもつことができた。 ○保護者のオリンピック・パラリンピックに対する関心が高まった。 ・学校説明会、学校だより等で、子どもの学校が「オリパラ教育推進校」であり、その取り組みを知らされることで、家庭でもオリパラに対する関心が高まった。 ○障害をもつ方々との共生社会の在り方について考える機会となった。 ・障がいのある人たちとふれあったり、生き方や考え方を学ぶことを通して尊敬の気持ちをもったり、自分にできることを考えたりすることができるきっかけとなった。 ・「みんなちがってみんないい」という考えを具体的に感じることもできた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○活動が一つの点にならないように、運動会での走りにいかせるようここが練習に取り組める期間を確保できる時期に教室の取組を計画した。 ・走り方教室を実践するにあたり、時間を確保したり、運動会にメッセージをいただいたりして、教えていただいたことを意識できるようにした。 ○校内にオリンピック・パラリンピック情報が掲示・展示できる場所をつくり、子どもたちの意識付けになるようにした。
8 主な課題等	○活動を授業時数としてカウントできるようにカリキュラムに組み入れる必要があった。 ・特別活動や、総合的な学習の時間としてあらかじめ設定しておくようにする。 ○取り組みが一部学年にとどまったり、点で終わってしまうことがあったので、継続的、計画的に活動を考えていく必要がある。 ○取り組んだことが記憶に残るように、掲示物をより工夫する。 ・2020年まで活動がつけられるように、掲示物を作成し、活動を加えていけるようにする。
9 来年度以降の実施予定	○校内にオリンピック・パラリンピック情報が掲示できる場所をつくり、各学年や学級の取組を全体化し、積み重ねていけるようなコーナーとする。 ○引き続きオリンピック・パラリンピアンを招聘したい。